

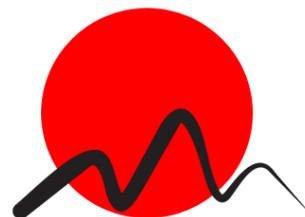
Slovenia Monthly

November 2015

vol.1-no.2

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2015年12月4日



～11月の主なポイント～

難民問題：政府は対クロアチア国境にフェンスの設置を開始。スロベニアへの入国者数は28万人を越えた。

政治：国会が2016年度及び2017年度予算案を承認。

安全保障問題に関する「ブルドー・ブリュニ・プロセス」特別首脳会合がザグレブにて開催。

経済：欧州委が秋期経済観測を発表し、本年のGDP成長率を2.6%に上方修正。

治安：警察は、パリ連続テロ事件以降もスロベニアにおけるテロの脅威度は引き続き低いと指摘。

軍事：NATO加盟国の戦闘能力及び連携向上を目的とする多国籍山岳軍事センターが開設。

社会：第28回東京国際映画祭でスロベニア作品が受賞。

難民問題

●5日、パホル大統領は「国家行動計画」を提案し、国境防衛及び難民流入の制限を中心とする詳細な計画を採択すべきだと発言した。

●6日、欧州委員会は、スロベニアに対する1017万ユーロの緊急財政支援を承認した。

●10日、スロベニア政府は、対クロアチア国境においてフェンスを含む「技術的障壁」の設置を決定したが、本措置は一時的なものであり、安全の確保及び潜在的な人道危機の防止が目的である旨強調した。

●11日、スロベニア政府は、国内への難民流入をコントロールするため、主要な入国地点となっているブレジツェの東に位置するリゴンツェ及びスロベニア東部のギビナの対クロアチア国境2カ所に有刺鉄線のフェンスの設置を開始した。(フェンスは15日までに約20キロにわたって設置。政府は最終的なフェンスの全長は180キロになるとし、現在も建設継続中。)

オストイッチ・クロアチア内相は、リゴンツェでのフェンス設置に関し、フェンスの一部がクロアチア領内に設置されていると主張し、同フェンスの撤去を要求した。これに対しスロベニア政府は、フェンス設置は両国間の係争地となっている国境線を既成化しようとするものではない旨説明した。(スロベニアに迫る！①へ)

●13日、スロベニア政府は、予備警察官の動員期間を30日間とする制限を削除する規定を採択した。

●18日、スロベニア警察は、過去の政権と締結した、給与を約3分の1引き上げる合意の実行を求めるストライキを開始した。

また同日、スロベニア警察は、最近のスロベニアへ入国する「明らかな経済移民」の増加を受け、160人のモロッコ人のクロアチアへの返還を試みたものの、クロアチア側がこれを拒否した。

●19日、国防省は、難民問題対処の支援のため、1000人いる予備役のうち200人の召集を発表した。

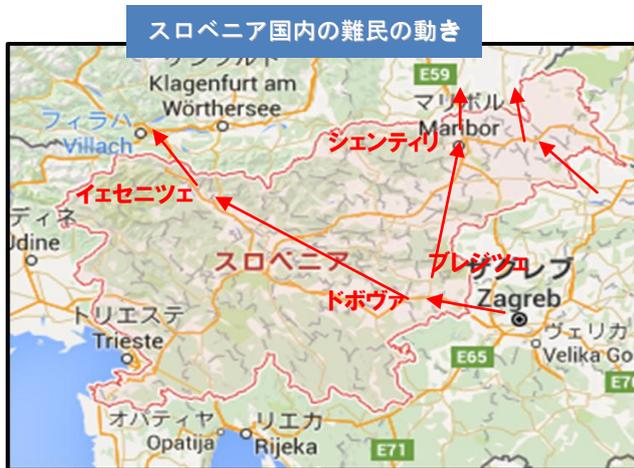
同日、ツェラル首相は、蘭が独、墺、蘭、ベルギー及びルクセンブルクを含むミニ・シェンゲン地域を主導しようとしているとの情報に関し、もし本当であれば断じて受け入れられないと発言した。

●20日、スロベニア及びオーストリア政府は、新たに北西部のイエセニツェからオーストリアに入国するルートの開設に合意した。

●24日、ムラモル財相は、難民問題対応の費用として11月15日までに1120万ユーロ、難民ひとりあたり換算して1日40ユーロ強支出したと発表した。

●29日、難民問題に関するEU・トルコ首脳級会合において、ツェラル首相は、トルコが不法移民への対策強化等の合意内容を可能な限り早く実行することが重要である旨発言した。

●11月30日の時点で合計28万940人の難民がスロベニアに入国(11月では16万4313)し、10月20日以降合計26万9368人がオーストリアに出国した。(STA通信、スロベニア警察統計)



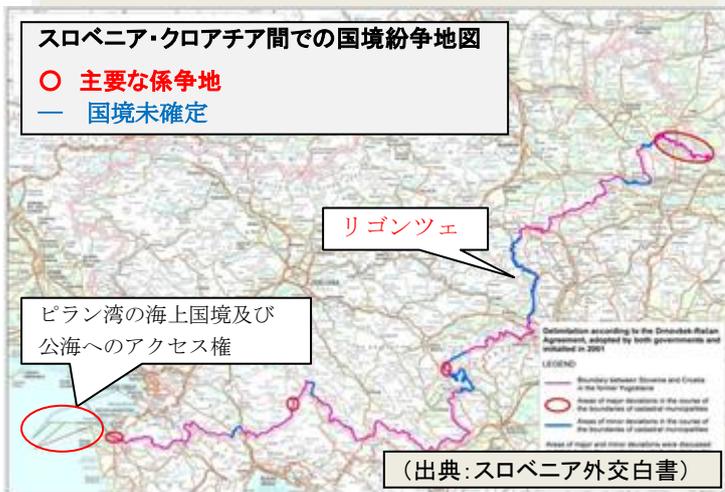
スロベニアに迫る！①

スロベニアとクロアチアの国境問題

スロベニアは約668キロにわたり東部国境をクロアチアと接していますが、旧ユーゴ時代に国境が明確でなかったことが主な原因で未だ8か所で国境が画定しておらず、両国の争いの種となっています。

そのため両国は、2009年に本問題を仲裁裁判所に付託する仲裁協定を締結し、現在も審理が継続中です。しかし、本年7月にクロアチアメディアがスロベニア選出裁判官の電話会話の盗聴記録を公表したことを受け、クロアチア政府が同仲裁協定からの脱退を一方向的に通告しました。

11日にスロベニア政府がフェンスを設置したりゴンツェ付近は、係争地となっている多くの国境のうちのひとつです。



政治

【内政】

●2016年度及び2017年度予算案の国会承認【18日、25日、12月1日】

18日、国民議会(下院)は2016年度及び2017年度予算案を承認した。2016年度予算案では、歳入は87億ユーロ、歳出は95億ユーロとなる。財政赤字は、対GDP比で2.1%となり、これは2008年の経済危機の開始以降最低の水準である。2017年度予算案では、歳入は2016年度と同水準であるが、歳出は94億ユーロに減少し、財政赤字は対GDP比で1.75%となる見込みである。

25日、国民評議会(上院)は、地方自治体への交付金が本年度予算より減額されているとして、本予算案に関する国民議会の承認に対する拒否権を行使した。

12月1日、国民議会において、再可決に必要な全議員の過半数(46人)を上回る52人が賛成票を投じ、本予算案を再可決した。

【外政】

●スロベニア・ハンガリー首相会談の開催【5日】

ツェラル首相は、オルバーン・ハンガリー首相とともに、スロベニア北東部のレンダヴァ市で行われたハンガリー系少数民族団体の設立40周年記念式典に出席し、式典後首脳会談を行った。

両首相は、難民問題について議論したほか、二国間関係強化に向けた具体的提案を協議するために両国の合同閣議を開催することで合意した。

●パホル大統領のウクライナ訪問【14日】

パホル大統領はウクライナを実務訪問し、ポロシェンコ大統領とパリ連続テロ事件及びウクライナ東部情勢等を中心に協議した。

また、両大統領は、ウクライナにおける改革の進捗状況につき意見交換を行い、パホル大統領は、ウクライナの欧州への展望に対するスロベニアの支持を確認するとともに、EUはウクライナの欧州への関心を支持しており、適切な対応が必要であるとの考えを示した。

●スロベニアのユネスコ執行委員会委員国当選【11日】

ユネスコ執行委員会委員国選挙が行われ、スロベニアは2003～2007年期以来となる2度目の当選を果たした。

●ツェラル首相の中国訪問【24～26日】

ツェラル首相は中国を訪問し、「16+1(中東欧諸国+中国)」の枠組みで開催された中国・中東欧経済貿易フォーラムに出席した。

また同首相は李・中国首相と会談を行い、両者は、二国間関係は全ての分野において発展しているとした上で、経済関係強化への期待を表明した。

●ブルドー・ブリュニ・プロセス特別首脳会合及びパホル大統領のバイデン米副大統領との会談【25日】

国際安全保障問題に関する「ブルドー・ブリュニ・プロセス」特別首脳会合がザグレブにおいて開催され、参加国首脳はテロとの戦い、難民危機、EU拡大及びNATO加盟プロセスの活性化等に関する共同声明を採択した。

また、パホル大統領は同会合に出席したバイデン米副大統領と会談を行い、バイデン副大統領は、地域首脳が一同に会し協議する場となっている本プロセスを高く評価した。

(注)「ブルドー・ブリュニ・プロセス」は、スロベニアとクロアチアが主導する西バルカン諸国間の協力強化を目的とした枠組み。2010年に閣僚会合として発足し、2013年にパホル大統領のイニシアティブで首脳会合にレベルが引き上げられた。

●スロベニアのAIIB加盟の可能性【28日】(デロ紙インタビュー記事)

スロベニア財務省は、中国の主導するアジアインフラ投資銀行(AIIB)について、スロベニアは現時点でAIIBに招待されておらず、加盟による経済への直接的メリットは想定されない旨コメントし、政府が進めている緊縮財政の中では、AIIBへの資金拠出よりも、医療、教育、年金等の手当を重視するとの立場を表明した。ただ、同省は、AIIBの今後の活動を注視し、経済への恩恵等が出ると判断した場合には、将来的には加盟申請を行う可能性もあるとしている。

一方、スロベニア商工会議所は、AIIBへのコメントを避けつつ、最近のビジネス会合ではアジア開発銀行(ADB)への加盟がむしろ支持された旨述べた。

●ツェラル首相のCOP21首脳会合出席【30日】

ツェラル首相は、パリで開催されたCOP21首脳会合に出席した。同首相は、先進国及び途上国を結束させる法的拘束力を持った野心的かつ強力な合

意成立に期待を表明し、スロベニアは気候変動に関するEUの共通ポジションを完全に支持し、相応の負担を履行することを約束した。

経済

【マクロ経済】

●欧州委員会による経済観測(2015年秋期)【5日】

欧州委は秋期経済観測を発表し、本年におけるスロベニアのGDP成長率を春期予測の2.3%から2.6%に上方修正した。一方で、2007年～2013年期のEU基金からの支援終了を受けて投資が減少するとして、2016年のGDP成長率は2.1%から1.9%に下方修正した。

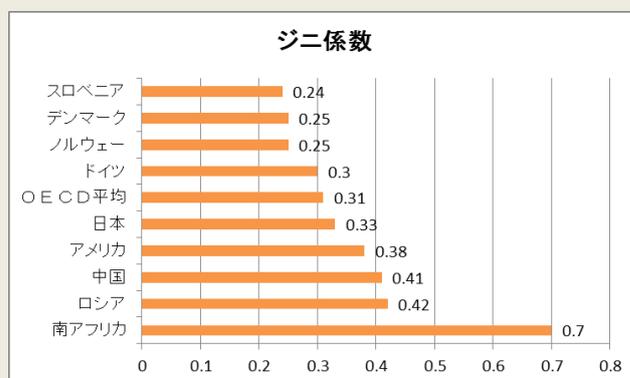
輸出が引き続き経済成長の主要因となるほか、継続的な雇用の創出やEU基金を活用したインフラ計画に基づく投資の影響を受け、個人消費も増加すると予測している。

財政赤字は、本年は対GDP比2.9%となり、2016年は2.4%、2017年は2%に減少すると見込んでいる。

スロベニアに迫る! ②

平等の国、スロベニア

OECDの統計(2013年 Factbook)によると、スロベニアは全OECD加盟国の中で、最も収入が平等な国とされています。スロベニアのジニ係数(富の平等を表す数値で、0が完全な平等、1が完全な不平等)は0.24で、ノルウェーやデンマークなどのスカンジナビア諸国を抑えて第1位となっています。ちなみに日本のジニ係数は0.33でOECD加盟国の平均の0.31をやや上回っています。



【金融・企業関係】

●2020年東京五輪関連事業参入に向けたスロベニア企業の動き【4日】(ドゥネウニク紙日本特集)

スロベニア日本ビジネス協会(SJBC)は、スロベニア企業の2020年東京五輪関連事業への参入を後押しする「名誉プロモーター」として、元スキーマーのユーリ・フランコ氏(84年サラエボ五輪銀メダリスト)及びミロ・ツェラル氏(東京五輪鞍馬金メダリスト、ツェラル首相の父)を任命した(9月10日)。

これまで、ゴレニエ社、コペル港、M Sora 社といった複数の大企業が日本とのビジネス関係を構築してきているが、対日輸出額は極めて少ない。2年前にパナソニックとの間で戦略パートナーシップを結んだゴレニエ社は、日本への高級家電輸出に向けた活動を強化したいとしている。

スロベニアと日本との間の貿易額は徐々に増加してきている。2008年の貿易額は1億2540万ユーロであったが、2009年には7700万ユーロにまで減少した。しかし、2014年には9300万ユーロにまで回復し、本年は8月までで6100万ユーロとなっている。スロベニアは日本から自動車、ワクチン、バイク等を輸入し、スロベニアは日本に医薬品、自動車部品、ゴム製品及び体育用機材等を輸出している。

●ジダン副首相兼農林食糧大臣の訪中【4~8日】

ジダン副首相兼農林食糧大臣はスロベニアの農産品加工会社代表30名とともに訪中した。滞在中、ジダン農相は汪洋・中国國務院副総理と会談を行ったほか、スロベニア産乳製品の輸出に際する検疫・衛生基準に関する議定書に署名した。また同大臣は、農産品の貿易促進に関する会議に出席し、スロベニア産ワインや乳製品の中国への輸出拡大に期待を示した。

●AJM社製高断熱窓の対日輸出【9日】

断熱窓等の輸入販売を行うグリーン・ブリッジ社(本社:東京)社長及び11名の日本人建築家が、スロベニア第2の都市マリボル近郊にある「AJM Windows-doors-shades」社を訪問した。断熱効果の高い窓やドア等を製造するAJM社はグリーン・ブリッジ社を通じた高断熱窓の対日輸出を2年前から開始しており、欧州に加え日本を含めたアジア諸国や中東、ロシア等への販路拡大を目指している。

●バルト海~アドリア海鉄道輸送回廊開設【11日】

EU域内における鉄道輸送の促進を目的とし、ポーランドのグダンスクからイタリアのラベンナに至る

「バルト海~アドリア海鉄道輸送回廊」が正式に開設された。同回廊は、スロベニア、チェコ、ポーランド、オーストリア及びイタリアの共同イニシアティブにより開設され、上記5カ国の主要な工業地帯を縦断し、バルト海及びアドリア海の主要な港湾を結ぶものであり、スロベニアのコペル港も含まれる。

ガシュペルシッチ・インフラ大臣は、本件回廊の開設及びその発展は、トラックから鉄道輸送への転換を促進するものとして評価した。

●電機部品大手ドメル社の対日輸出に向けた動き【13日】

ドメル(Domel)社は、欧州の掃除機の3分の1で使用されるバキューム・モーターを製造する電機部品製造大手の会社である。同社は、昨年より対日輸出拡大を目指しており、日本企業との間でレーザー加工の過程で発生する有害ガス除去用の吸引器に使用される送風部品の供給に合意し、2016年には約100万ユーロ相当の送風部品を日本に輸出する予定である。

●スロベニア長者番付【17日】

マネージャー誌はスロベニア長者番付を発表し、携帯端末用アプリのメーカー「Outfit7」社社長のロギン夫妻が資産8億5500万ユーロで第1位となった。第2位は通販会社「Studio Moderna」社社長のチェシュコ氏で資産は2億7100万ユーロ、第3位は Outfit 7社の共同経営者であるピストウニク氏で資産は2億6000万ユーロであった。上位100人の資産合計額は46億ユーロで昨年より3.3%増加し、これまで最高であった2008年を上回る新記録となった。

●オプトテック社のベストFDI賞受賞【18日】

スロベニア投資庁(SPIRIT)主催で開催された第10回ベストFDI(海外直接投資)賞授賞式において、キャン傘下の眼科用レーザー診断・治療機材メーカーであるオプトテック(Optotek)社がビジネス業績及び技術開発部門でベスト FDI 賞を受賞した。



●航空機整備会社「アドリア航空テクニカ(Adria Airways Tehnika)」社の民営化【24日】

国有企業民営化リストの対象となっている航空機整備会社「アドリア航空テクニカ」社が、ポーランドの航空機整備会社である「ラインテック(Linetech)」社に売却された。売却額は明らかになっていないが、非公式な情報では200万ユーロにのぼるとされている。ラインテック社は2009年に上場され、ポーランド国内の7つの空港で機体整備を担っており、200人以上の技術者を有している。

軍事

●NATO多国籍山岳軍事センターの開設【10日】

NATO多国籍山岳軍事センターが、スロベニア北西部のポルツェに開設された。本施設は、山岳戦闘における知識や技術の共有及び共同作戦での連携向上を目的としている。

カティッチ国防大臣は、本施設の設置は、NATOがスロベニアの山岳戦闘における主導的な役割を認識している証であり、これはスロベニア軍にとり名誉なことである旨述べた。

スロベニアに迫る！③

スロベニア軍の国際貢献

国防省によると、現在397人のスロベニア軍兵士が、国連、EU及びNATOの様々な軍事作戦に参加しています。

そのうち、305人がNATO主導のコソボ治安維持部隊、49人がEU主導の地中海における人身取引及び密輸ビジネス対策にあたる「ソフィア作戦」に従事しています。その他スロベニア軍兵士は、ボスニア・ヘルツェゴビナ(14人)、レバノン(14)、アフガニスタン(7)、マリ(3)、シリア(3)、マケドニア(1)、セルビア(1)で活躍しています。

治安

●パリ連続テロ事件(スロベニアでの反応)【14・15日】

14日、スロベニア警察は、パリ連続テロ事件を受け、スロベニアにおけるテロの脅威度は引き続き低いと、難民の流入継続は治安上の問題となり得るとの考えを示した。

15日、国家安全保障会議は、スロベニアにおける治安状況は、現在のところ良好かつ安定的と評価す

るとともに、スロベニア警察は一定の警備措置を既に導入しており、必要に応じた追加措置も運用を開始した旨発表した。

●テロの脅威に関する世論調査【24日】

テロの脅威に関する世論調査が行われ、パリ連続テロ事件以前より安全性が減少したとは感じないと回答した人は59%にのぼり、19%が脅威に感じると回答した。またISILに対する軍事攻撃を支持すると答えた人は41%、支持しないと答えた人は44%で意見が分かれた。

社会・文化・スポーツ

●東京国際映画祭でスロベニア作品が受賞【1日】

第28回東京国際映画祭コンペティション部門において、オルモ・オメルズ監督作品「家族の映画」が最優秀芸術貢献賞を受賞した。同監督は1984年にリュブリャナで生まれ、チェコのプラハ芸術アカデミー映像学部を卒業。第26回リュブリャナ国際映画祭のオープニング作品に選ばれた。

●ゴリシュカ・ブルダ地方の新観光バス「GOGO Bus」【12日】

スロベニア西部、イタリア国境にあるノヴァ・ゴリツァ市の観光局は、ヴィパヴァ・ヴァレーなどワイン産地を巡る観光バス「GOGO Bus」のサービスを新しく準備している。同観光局によれば、現在バスの停留所は8カ所のみだが、将来的に数を増やすとのこと。バスルート上の観光農園やワイナリー、レストランも同サービスに参画予定で、グルメをテーマにした観光を提供していく。

●リハルト・ヤコピチ展が国立美術館で開催【18日】

スロベニア印象派画家を代表するリハルト・ヤコピチの絵画展がリュブリャナ市の国立美術館で始まった。絵画45点のほか、最近美術館が入手した構想を練った下書き等も展示される。会期は2月28日まで。

●イストリア地方の伝統的家屋を再現【21日】

スロベニア南西部、アドリア海の奥に位置するイストリア地方の活性化を目指し、観光農園があるメドゥリヤンでイストリア風の伝統的な家屋が建設された。このタイプの家屋は壁が石を積んで出来ており、かつては農機具の収納小屋としても活躍していた。再現された家屋は観光のインフォメーションポイントとし

て利用され、この地方の特産品を紹介するワークショップやセミナー等にも活用される。

スロベニアに迫る！④

スロベニア人の所得

スロベニアでは累進課税制度を採用しており、所得税を4つの区分の税率に従って支払います(第1区分:課税対象所得の8021ユーロ未満部分(16%)、第2区分:1万8960ユーロ未満部分(27%)、第3区分:7万907ユーロ未満部分(41%)、第4区分:7万907ユーロ以上部分(50%))。

この中で課税対象所得が第1区分のみに該当する納税者は全体の60%で最も多く、第2区分や第3区分まで達する人はそれぞれ31%と8%となっています。第4区分の税率が適用される納税者は全体の0.34%だけです。

発見！スロベニア

ジェロデツ(zelodec)

リュブリャナから北東40キロに位置する自然の景観が美しいズゴルニャ・サヴィンスカ・ドリーナ地域には、地元が誇る特産品ジェロデツ(zelodec)があります。ジェロデツとは、地域産の豚肉を塩、胡椒、にんにくと混ぜて豚の膀胱に詰めたソーセージのことで、クリスマスやイースターなど祝祭日の伝統的な食べ物となっています。ジェロデツの独特の風味はこの地域の風土によるところが大きく、他の地方で製造しても同じ味はつくり出せません。



(写真:ジェロデツ公式サイト)

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックが出来ました！

当館のフェイスブックでは、スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせやレポート、スロベニア事情等の情報を随時発信しております。「いいね！」ボタンで当ページのフォローをよろしくお願いします。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

【領事からのお知らせ】

●「たびレジ」に簡易登録機能がつきました！

たびレジとは、いざという時、在外公館などから緊急時情報提供を受けられる外務省の海外旅行登録システムです。

この度このたびレジに簡易登録機能がつきました。メールアドレスと対象国・地域だけを登録することで、実際の渡航の有無やその旅行期間に縛られることなく、継続的に領事メール及び最新海外安全情報メールを受け取ることが可能となります。(ただし、緊急時の安否確認の対象とはなりません。)

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

●安全に関する注意喚起

11月13日夜、フランスのパリにて連続テロ事件が発生しました。このような無差別テロは、いつ、どこで発生するか分かりません。テロを含む大事件対策として、以下のことにご留意ください。

1. 事件が発生した場所、危険と思われる場所には絶対に近づかない。
2. 異変を覚知した場合には直ちに警察、大使館に連絡する。
3. ニュース媒体や大使館ホームページなどから治安に関する最新情報を入手する。
4. 海外に渡航する際には「たびレジ」に登録する。→現地の日本大使館からの緊急メールが受信できる(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)
5. 在留届の提出の際に届け出た住所・電話・メールアドレスに変更や間違いがないか確認する。(変更等がある方は大使館までご連絡願います。)
6. 外出時には家族、同僚等に行き先、戻りの時間等を伝える。

【文化行事・大使館関連行事のお知らせ】

●「Makkon 2015」～日本のアニメ・マンガを紹介

日本のポップカルチャーの代表であるアニメ・マンガを紹介するスロベニア最大級のイベント。イベント名の「Makkon」とは「Matsuri(祭)」と「Convention(会議)」各々の始めの音韻を組み合わせた造語。専門家によるアニメやマンガのレクチャーのほか、イラスト教室、マンガ購読コーナー、キャラクターグッズの販売、コスプレ・コンテスト、ゲーム大会等の充実したコンテンツで来場者の皆様を迎えます。

日時: 12月12日(土)

場所: リュブリャナ大学コンピュータ科学・情報学部(住所: Večna pot 133)

入場無料

URL: <https://makkonsi.wordpress.com/>

Facebook: <https://www.facebook.com/makkonmakkon/>

●「Animateka 2015」～日本のショートアニメ5作品を上映

12月7日から開催される国際アニメフェスティバル「Animateka 2015」の「Best of the World」部門にて、日本のショートアニメ5作品が上映されます。会場はキノテカもしくはキノドゥヴォルにて。プログラム等の詳細は公式サイトで確認できます。

URL: <http://www.animateka.si/2015/en/home.html> (英語)